

子供を持つことの価値に関する基礎的研究¹⁾

心理学科 岩田 紀

抄録：本研究は某国立大学生 132名（男性76名，女性52名）を対象に「子供を持つこと」の価値に関する実態を調べ，「子供を持つこと」の価値と快楽希求，男女平等主義，親和欲求，自己中心主義，目標達成指向，男性性および女性性との関係について検討した。これらすべての変数は5段階評定尺度によって測定し，因子分析により項目を選択し内的整合性について検討した。「子供を持つこと」の価値について7つの心理的変数を独立変数として一括投入し重回帰分析を行った。その結果，自己中心主義が強いほど「子供を持つこと」の価値が低いという関係が認められた。「子供を持つこと」の価値に関して，将来欲しい子供の人数の多少による差異は認められたが，性差は見られなかった。

索引語：子供，価値

近年，わが国における出生率の低下は著しく，少子化とか少子社会という言葉が頻繁に使用されるようになってきた。そして現在も進行中の少子化は止まる所を知らず，いわゆる高齢化社会の到来とあいまって，年金や健康保険の制度の崩壊を招来し，将来の深刻な労働力不足と消費市場の縮小によるわが国の国力の低下が懸念されている。この少子化傾向に歯止めを掛けるべく様々な制度が導入されたりあるいは議論されてきているが，今日の「子供を持つ」という行動は相対的により強く夫婦の自由な意思に委ねられているため，彼らの心理的要因の影響が大きいと考えられる。

したがって，少子化現象を理解するためには，少子化をもたらす心理的要因を解明することが必要である。一般に，自分がある行動を行うことが持つ価値が高ければ高いほど人がその行動を完遂する傾向が強いと推測される。この限りにおいて，少子化が進行する背景として，夫婦にとって「子供を持つこと」の価値が以前に比べて低下してきたのではないかという可能性を指摘できるであろう。

「子供を持つこと」の価値に関して，The value of children Vol.1 (1975) に一連の研究の概略が紹介されている。その後，この種の研究は散発的に行われてきている。わが国に関するデータもこの中で分析されているが，わが国ではこのテーマに関する心理学的研究はほとんど見られない。わずかに，青木・神宮（2000）が面接調査のデータに基づき子供を持つことの意味について考察している。このように，わが国において「子供を持つこと」の価値に関する研究がほとんど行われていないのが実情である。「子供を持つこと」の価値に実質的に影響を及ぼすかあるいは関連する要因としては，人口統計学的変数よりも心理的変数が重要であると考えられる。

本研究は大学生における「子供を持つこと」の価値に関する一般的傾向を探るとともに，少子化の背景にある心理的要因の重要性に鑑み，「子供を持つこと」の価値とそれに関連すると推測される快楽希求，男女平等主義，親和欲求，自己中心主義，目標達成指向，男性性および女性性などとの関係について検討することを目的としている。

方 法

被験者 某国立大学某学部にて専門科目を受講する2クラスと某学部夜間主コースの教養科目

を受講する1クラスの学生132名であった。そのうち、男性は76名、女性は52名であり、年齢を記入した125名の平均は20.43そして標準偏差は2.15であった。

質問紙 The value of children の研究で用いられた項目をそのままあるいはそれらを参考にして筆者が作成した項目を併せた57項目の「子供を持つこと」の価値尺度を使用した。被験者は各記述が自分の考えにどの程度当てはまるかを5段階評定尺度上に回答した。また、快樂希求、男女平等主義、親和欲求、自己中心主義、目標達成指向、男性性および女性性の心理的変数については、過去の尺度から適切であると判断できる3～4項目をそれぞれ使用し、各記述がどの程度当てはまるかを5段階評定尺度上に回答させた。尺度の選択肢は「当てはまる」、「やや当てはまる」、「どちらでもない」、「やや当てはまらない」および「当てはまらない」であった。回答は「当てはまる」という傾向が強いほど高得点になるように1～5の得点を与えた。したがって、得点が高いほどそれぞれの傾向が強いことを意味している。なお、7個の心理的変数を測定するために使用した項目については本セクションの最後に記述する。さらに、今後の少子化の見通しに関する5段階評定尺度上に回答を求めた。回答は得点が高いほど「少子化の進行」を肯定する傾向が強くなるように得点化した。また、将来欲しい自分の子供の人数を0人、1人、2人および3人以上の中から選択させた。

最後に、上述の7個の心理的変数を測定するために用意した項目を紹介することにする。

快樂希求については①私はいつも何か楽しいことを探し求めている、②人生は楽しむためにあると思う、③レジャーをいかに楽しむかはとても大切である、の3項目を使用した。男女平等主義は①家庭や社会で男女平等がもっと実現されるべきである、②「男は仕事、女は家庭」という考えは間違っている、③「男は男らしく、女は女らしく」という考えには反対である、の3項目によって測定した。親和欲求の測定は①一人であるより人と一緒にいる方が好きである、②親しい人と頻繁に会ったり電話をする方である、③新しい友達ができるのはとてもうれしい、の3項目によって行った。自己中心主義は①ボランティア活動や奉仕活動には関心がない、②自分のことで精一杯で他人のことを考えるゆとりがない、③人にとって最も大切なのは自分自身である、④人は自分の幸せを最も優先するものである、の4項目によって測定した。目標達成指向の測定には①私にはぜひ実現したい目標がある、②私は苦しいことでも我慢して目標を達成しようとする、③私は目標に向かって粘り強く努力するタイプである、の3項目を使用した。男性性は①私は積極的である、②私は意志が強い、③私は独立心が強い、④私は「男らしい」と思われている、そして女性性は①私は「女らしい」と思われている、②私は従順な方である、③私はやさしい方である、④私は繊細な方である、の各4項目によって測定した。

手続き 2枚綴りの質問紙を各授業の最初の時間に配布し、集団でデータを収集した。記入漏れのない132名のデータを分析に使用した。分析には StatSoft 社の Statistica™ のプログラムを使用した。

結 果 と 考 察

子供を持つことの価値に関する各項目に関して、子供を持つことの価値をポジティブに記述している項目については、その項目に対して「当てはまる」という傾向が強い回答ほど高得点になるように1～5の得点を与えた。それに対して、子供を持つことの価値をネガティブに記述している項目（表1の末尾の逆転項目）については、その項目に対して「当てはまらない」という傾向が強い回答ほど高得点になるように1～5の得点を与えた。

このように、子供を持つことの価値に関する57項目の反応を個人ごとに得点化した。したがって、すべての項目に関して、子供を持つことの価値が高いほど高得点になるように得点を与えた。本研究で用いた項目は子供を持つことに関する極めて多様な価値を含んでいるため、因子分析を適用して少数の価値の次元を抽出することは適切ではないと考えられる。あるいはたとえ因子分

表1 子供を持つことの価値に関する平均と標準偏差

	\bar{X} (SD)
1. 子供の世話はうんざりする仕事である	3.94(1.03)
2. 子供を持てば親が老いて働けなくなった時に援助してもらえる	2.81(1.19)
3. 子供を育てることは一つの美德である	3.11(1.28)
4. 子供に対してだけは愛情を遠慮なく表すことができる	3.51(1.16)
5. たいていの夫婦は子供がなければ幸せであろう	4.30(0.89)
6. 子供は自分が人生において成功するための特別な刺激になる	3.33(1.21)
7. 子供を持つことは家の伝統を守るために重要である	2.64(1.30)
8. 男性が子供を欲しがるのは自然なことである	3.51(1.12)
9. 子供を育てることは喜びよりも経済的・精神的な苦勞の方が多い	3.62(1.07)
10. いつも子供が周りにいると精神的緊張が絶えない	3.57(1.24)
11. 家族や親戚からの圧力を考えると子供を持つべきか否かについてあまり選択の余地はない	4.11(1.10)
12. 子供を持つことは社会に対する義務である	1.88(1.09)
13. 子供のための親の努力はすべてやりがいがある	3.54(1.16)
14. 子供は夫婦のきずなを強くする	4.02(0.94)
15. 人生の最高の価値の一つは子供を持つことである	3.35(1.17)
16. 親になって初めて一人前の大人になったと言える	2.73(1.27)
17. 子供の人生におけるつまずきや失敗は両親の責任である	3.24(1.09)
18. 子供を持つことは結婚のもっとも重要な目的である	2.40(1.22)
19. 子供がいるとやりたいことや行きたい場所が制限される	2.25(0.99)
20. たいていの人にとって子供のいない人生は退屈である	2.68(1.23)
21. 子供ができるまでは若い夫婦は地域に完全には受け入れられない	2.31(1.11)
22. 自分には親としての責任が重すぎる	2.58(1.15)
23. 子供は親の夢や希望を実現してくれる	2.20(0.94)
24. 子供がいると多くの楽しみをあきらめなければならない	3.26(1.12)
25. 子供が親に示す真の忠誠は子供を持つ喜びの一つである	2.78(1.17)
26. 子供を持てば夫婦間に幾多の不一致や問題が生じる	2.70(1.11)
27. 子供がいる人はそうでない人よりも地域で信頼される	2.81(1.03)
28. 女性が子供を欲しがるのは自然なことである	3.78(0.98)
29. 子供に必要とされているという親の気持ちは子供を持つ価値として十分である	3.94(0.99)
30. 子供を無事一人前に育て上げると達成感を味わうことができる	3.71(1.10)
31. 子供がいる家庭は良き社会の基盤である	3.12(1.06)
32. 子供の成長や達成を見るのは親の喜びである	4.57(0.69)
33. 親になる喜びの一つは物事の善悪を子供に教えられることである	3.18(1.13)
34. 子供を持つことは家名を継承するための義務である	1.98(1.01)
35. もし子供がいれば死後に自分の一部が生き続けていると感ずることができる	2.77(1.38)
36. 子供を持つメリットの一つは決して寂しくないことである	3.49(1.18)
37. 子供を育てることはたいていの人にとって経済的に重荷である	2.41(0.97)
38. 自分の子供の人数を制限することは自然に逆らうことで正しくない	2.13(1.17)
39. 人生における本当に重要なことは子育ての経験からしか学ぶことができない	1.96(0.98)
40. 子供を持つと仕事や職業を続けるうえで過剰な負担になる	2.70(1.07)
41. 子供を持つことは結婚への祝福のしるしである	3.01(1.13)
42. 子供がいる家庭は居心地がよく幸せに感じられる	3.52(1.03)
43. 子供がいない人は本当に幸せとは言えない	1.80(1.00)
44. 子供を育てる中で自分も人間として成長する	4.53(0.62)
45. 子供との触れ合いは心をなごませてくれる	4.33(0.76)
46. 子供がいると夫婦二人で過ごす時間が少なくなる	2.73(1.18)
47. 妊娠や出産は母体に危険を伴う	2.17(0.97)
48. 生まれる子供が健康であるとは限らない	1.80(0.80)
49. 子供を育てることは心身ともに疲れる仕事である	2.41(0.92)
50. 子供は宝である	4.23(1.00)
51. 子供のしつけや養育に自信がない	2.63(1.17)
52. 子供を将来幸せにできるか否か心配である	2.30(1.02)
53. 子供は騒々しく厄介な存在である	3.52(1.19)
54. 子供のいない夫婦は何となく後ろめたい	2.24(1.15)
55. 子供は家の名を高めてくれる	1.95(0.97)
56. 子供がいると家業や財産を継がせることができる	2.93(1.19)
57. 子供は家事や家の雑用を手伝ってくれる	3.06(1.07)

逆転項目：1, 5, 9, 10, 11, 17, 19, 22, 24, 26, 37, 40, 46, 47, 48, 49, 51, 52, 53

析によって少数の因子を抽出したとして、子供を持つことの価値の多様性ゆえに、子供を持つことの価値に関する重要な項目の多くが抽出された因子に関与しないことがあると予測される。実際、試みに57項目に因子分析を適用し、固有値1以上の10個の因子を抽出できたが、バリマックス回転後の因子を明快に解釈することが困難であった。したがって、本研究では57項目すべてを分析に用いることにした。また、57項目に関して Cronbach の α 係数を算出すると .875 であった。そこでこれら57項目の得点を加算して、子供を持つことの価値に関する個人ごとの得点とした。

快樂希求の3項目に関して $\alpha = .633$ 、男女平等主義の3項目に関して $\alpha = .614$ 、親和欲求の3項目に関して $\alpha = .717$ 、自己中心主義の4項目に関して $\alpha = .556$ 、目標達成指向の3項目に関して $\alpha = .739$ 、男性性の4項目に関して $\alpha = .660$ 、そして女性性の4項目に関して $\alpha = .547$ であり、各心理的変数を測定する項目の得点を加算して、個人のそれぞれの得点とした。

まず、男女併せた被験者全体に関して、子供を持つことの価値に関する平均と標準偏差を算出したが、その結果は表1に示されている。表1の下部には逆転項目が示されているが、これらの項目については、記述に対する「当てはまらない」という傾向がより強い回答ほど高得点になっている。それに対して、逆転項目に該当しない項目については、「当てはまる」という傾向がより強い回答ほど高得点になっている。平均が3.50以上および2.50以下の項目は子供を持つことの価値に関する中立的というよりむしろ相対的により目立った価値あるいは見方であるといえよう。

次に、子供を持つことの価値に関する得点と7個の心理的変数、少子化の見通しおよび将来欲

表2 子供を持つことの価値と心理的変数の相関

快樂希求	男女平等主義	親和欲求	自己中心主義	目標達成指向	男性性	女性性	少子化の見通し	将来欲しい子供の人数
.08	.01	.21*	-.34*	.17	.13	.19*	-.18*	.34*

$p < .05$

表3 子供を持つことの価値に関する重回帰分析

独立変数	β
快樂希求	.08
男女平等主義	-.04
親和欲求	.06
自己中心主義	-.30*
目標達成指向	.06
男性性	.06
女性性	.16*

*.05 < p < .10

* p < .001

表4 性別による子供を持つことの価値

性別	\bar{X} (SD)
男性 (N=76)	175.02 (21.91)
女性 (N=52)	168.02 (22.00)

t 検定(両側)により有意差なし

表5 子供を持つことの価値に関する性差

項 目	男 性	女 性
	\bar{X} (SD)	\bar{X} (SD)
6. 子供は自分が人生において成功するための特別な刺激になる	3.57(1.17)	3.04(1.22)
22. 自分には親としての責任が重すぎる	2.79(1.17)	2.35(1.06)
38. 自分の子供の人数を制限することは自然に逆らうことで正しくない	2.28(1.22)	1.85(1.07)
40. 子供を持つと仕事や職業を続けるうえで過剰な負担になる	3.03(0.99)	2.19(0.97)
42. 子供がいる家庭は居心地が良く幸せに感じられる	3.70(0.88)	3.31(1.21)
43. 子供がいない人は本当に幸せとは言えない	1.97(1.03)	1.58(0.91)
51. 子供のしつけや養育に自信がない	2.88(1.20)	2.27(1.03)

すべて t 検定(両側)により有意差あり ($p < .05$)

表6 将来欲しい子供の人数の差異による子供を持つことの価値

将来欲しい子供の人数	子供を持つことの価値得点
	\bar{X} (SD)
「少」群 (0 または 1 人) (N=16)	146.63 (20.85)
	$p < .001$
「多」群 (3 人以上) (N=36)	173.56 (21.43)

t 検定 (両側)

しい子供の人数との間でピアソンの相関係数を算出したが、その結果は表2の通りである。それによると、親和欲求あるいは女性性の得点が高いほどそして将来欲しい子供の人数が多いほど子供を持つことの価値に関する得点が高いという有意な関係が認められた。いっぽう、自己中心主義が強いとかあるいは少子化の見通しに関して少子化の進行を肯定する傾向が強いほど子供を持つことの価値に関する得点が高いという関係が認められた。子供を持つことの価値に関する得点と将来欲しい子供の人数の間に低い有意な関係が認められたという事実は、子供を持つことの価値に関連する心理的要因を明らかにすることが少子化に関連する心理的要因の解明に寄与することを示唆しているといえよう。

さらに、7個の心理的変数を独立変数として一括投入し、子供を持つことの価値に関する得点について重回帰分析を実施したが、その結果は表3に示されている。それによると、自己中心主義に関する β のみ有意であり、自己中心主義が強いほど子供を持つことの価値に関する得点が高いという関係が認められた。この結果に関して、自己中心主義が強い者はそうでない者に比べて自分の考えや行動を優先すると考えられるが、自分の子供を持つことはこのような自己中心の行き方をあきらめざるを得ないことを意味しているといえよう。したがって、一般的に、自己中心主義を貫こうとする者はそうでない者に比べて子供を持つことにより低い価値を置くことになり、その結果、より少ない「自分の子供」を持つことになると推測できる。しかしこのような推測の妥当性については、関連する研究がないため、今後の研究を待つことが必要であろう。

次に、子供を持つことの価値に関する得点について性差を検討したが、その結果は表4に示されている。それによると、男女間には有意差が認められなかった。この結果に関して、親和欲求は男性よりも女性の方が強いことはよく知られているが、親和欲求が強い女性の方が自分の子供を含む家族との交流やきずなを求める傾向が強いと考えられる。しかしながら、本研究の結果は、このような親和欲求の強さが必ずしも自分の子供を持つこととする意志あるいは子供を持つことの価値に影響を及ぼすものではないことを示唆しているのかもしれない。

さらに、子供を持つことの価値に関する項目ごとに性差の検討を行ったが、そのうち、性差が認められた項目に関する結果のみ表5に示している。子供を持つことの価値に関する7項目に関してのみ性差が認められ、しかも7項目すべてに関して男性の得点が女性の得点よりも高かった。しかしなぜこれらの項目に関してのみこのような性差が得られたのかについては不明である。

次に、将来欲しい子供の人数により被験者を「少」群と「多」群に分け、子供を持つことの価値に関する得点の平均と標準偏差を算出しt検定を行った。その結果は表6に示されているが、「少」群に比べて「多」群の子供を持つことの価値に関する得点が高かった。また、子供を持つことの価値に関する各項目についても同様に、「少」群と「多」群の間でt検定を実施した。その結果、両群に有意差が得られた項目に関する結果が表7に示されており、57項目中23項目に関してすべて、「多」群の得点が「少」群のそれよりも有意に高かった。

ともかく、本研究はわが国における子供を持つことの価値およびそれに関連する心理的変数について検討した先駆的な研究であるが、今後、子供を持つことの価値に関連する心理的変数についてさらに検討を進めることが必要である。この分野の心理学的研究の進展はわが国の少子化現

表7 将来欲しい子供の人数の差異による子供を持つことの価値

将来欲しい子供の人数	「少」群(0～1人)	「多」群(3人以上)
項目	\bar{X} (SD)	\bar{X} (SD)
1. 子供の世話は退屈でうんざりする仕事である	3.25(1.44)	4.17(1.03)
3. 子供を育てることは一つの美德である	2.38(1.36)	3.25(1.32)
6. 子供は自分が人生において成功するための特別な刺激になる	2.50(0.97)	3.42(1.40)
9. 子供を育てることは喜びよりも経済的・精神的な苦勞の方が多	3.25(1.29)	3.94(1.01)
13. 子供のための親の努力はすべてやりがいがある	2.31(1.49)	3.67(1.01)
14. 子供は夫婦のきずなを強くする	3.44(1.21)	4.14(0.90)
15. 人生の最高の価値の一つは子供を持つことである	2.44(1.46)	3.39(1.27)
16. 親になって初めて一人前の大人になったと言える	1.88(1.15)	2.72(1.34)
19. 子供がいるとやりたいことや行きたい場所が制限される	1.44(0.63)	2.28(1.09)
20. たいいていの人にとって子供のいない人生は退屈である	1.88(1.36)	2.81(1.39)
22. 自分には親としての責任が重すぎる	1.38(0.72)	2.56(1.11)
24. 子供がいると多くの楽しみをあきらめなければならない	2.19(1.05)	3.61(0.99)
28. 女性が子供を欲しがるのは自然なことである	3.38(1.09)	4.06(0.86)
33. 親になる喜びの一つは物事の善悪を子供に教えられることである	2.31(1.01)	3.14(1.10)
37. 子供を育てることはたいいていの人にとって経済的に重荷である	1.81(0.83)	2.61(0.96)
39. 人生における本当に重要なことは子育ての経験からしか学ぶことができない	1.31(0.60)	1.92(0.94)
40. 子供を持つと仕事や職業を続けるうえで過剰な負担になる	2.25(1.29)	2.97(1.11)
42. 子供がいる家庭は居心地が良く幸せに感じられる	2.44(1.09)	3.69(1.04)
49. 子供を育てることは心身ともに疲れる仕事である	1.63(0.62)	2.61(0.93)
50. 子供は宝である	3.44(1.55)	4.36(0.96)
51. 子供のしつけや養育に自信がない	1.56(0.81)	2.86(1.27)
52. 子供を将来幸せにできるか否か心配である	1.50(0.73)	2.47(1.13)
53. 子供は騒々しく厄介な存在である	2.50(1.46)	3.78(1.15)

*t*検定(両側)によりすべて $p < .05$ にて有意差あり

象の背景にある心理的要因の解明に寄与し、ひいては少子化現象の抑止に向けて何らかの解決策を示唆することができるであろう。

注

- 1) 本論文は日本社会心理学会第42回大会における発表に資料を追加しまとめ直したものである。

引用文献

青木紀久代・神宮英夫(編著)(2000) 子供を持たないところ——少子化問題と福祉心理学 北大路書房
 Arnold, F., Bulatao, R. A., Buripakdi, C., Chung, B. J., Fawcett, J. T., Iritani, T., Lee, S. J., and Wu, T. S. (1975) The value of children: introduction and comparative analysis. Honolulu, HI: East-West Population Institute.

A basic study of “the value of children”

Osamu Iwata

Abstract: This study investigated value of children among 132 undergraduates at a national university (76 males and 52 females) and examined the relationship between value of children on the one hand and pleasure seeking, sexual egalitarianism, need for affiliation, egocentric attitude, need for goal achievement, masculinity and femininity on the other. All variables were measured by five-point rating scales. Items were selected by factor analysis and internal consistency was examined for each variable. Analysis of multiple regression was carried out for value of children with seven predictors entered simultaneously. Results indicated that stronger egocentric attitude was associated with lower value of children. Desired number of children produced significant difference in value of children, but there was no sex difference in value of children.

Keywords: children, values